

調査結果のまとめ

<1>理想の子ども数・予定の子ども数について

(1) 理想とする子ども数

理想とする子ども数は、男女ともに「2人（男性 45.1%、女性 43.1%）」が最も多く、次いで「3人（男性 38.3%、女性 42.5%）」となっている。

理想とする子ども数の平均は 2.54 人となっている。

また、予定する子ども数と一致している人の割合は、「3人（81.3%）」が最も多く、次いで「2人（60.0%）」、「4人（34.9%）」となっており、全体の一致率は 58.1%となっている。

(2) 予定の子ども数

予定している子どもの数は、男女ともに「2人（男性 51.0%、女性 50.7%）」が最も多く、次いで「3人（男性 24.1%、女性 21.7%）」となっている。

予定する子ども数の平均は 2.17 人となっている。

(3) 予定の子ども数が少ない理由

理想の子ども数より、予定の子ども数が少ない人にその理由を2つまであげてもらったところ、「子どもの教育にお金がかかるから（38.4%）」が最も多く、次いで「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから（33.8%）」、「家庭の収入が減っているから（23.3%）」、「高齢になってから産むのはいやだから（17.1%）」、「育児の心理的・肉体的負担が重いから（10.0%）」の順となっている。

<2>子ども数の減少について

(1) 子ども数減少の影響についての考え

子どもの数が減少することの影響についての考えを2つまであげてもらったところ、「将来、年金などの社会保障の負担が増加する（66.0%）」が最も多く、次いで、「将来の労働力の減少につながり、経済が停滞する（60.4%）」、「子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって好ましくない（43.5%）」の順となっている。

男女別では、「将来の労働力の減少につながり、経済が停滞する」は、男性（63.6%）の方が女性（57.6%）よりも大きくなっている。一方、「子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって好ましくない」の割合は、女性（48.1%）の方が男性（38.4%）よりも大きくなっている。

(2) 少子化に対する国・県・市町村の取り組みについての考え

少子化に対する国・県・市町村の取り組みについての考えを1つあげてもらったところ、「結婚や出産を妨げる要因を取り除くための取り組みはすべきである（47.3%）」、「出生率の回復に向け

て、積極的に取り組むべきである（39.1%）」の2項目に回答が集中しており、対策を求める意見が強い。男女間での差はほとんど見られない。

（3）出生率が低下している原因について

出生率の低下原因について3つまであげてもらったところ、「子育てや教育にお金がかかるから（70.7%）」が最も多く、次いで「仕事と子育てを両立させる社会的仕組み（育児休業等の制度や保育所等の施設）が十分に整っていないから（60.7%）」、「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚をしない人が増えているから（46.4%）」、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土があるから（32.8%）」の順となっている。

男女別では、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていないから」の割合は、女性 63.4%に対し男性 52.0%、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土があるから」の割合は男性 36.0%に対し女性 31.9%と差が見られる。

＜3＞結婚に対する意識について

（1）晩婚化、未婚化の理由

晩婚化・未婚化の理由を3つまであげてもらったところ、「独身生活の方が自由が多いから（59.2%）」が最も多く、次いで「本人も周囲も、結婚にこだわらなくなったから（51.0%）」、「経済的に不安定で、結婚後の生活資金が足りないから（44.1%）」の順となっている。

男女別では、「本人も周囲も、結婚（結婚適齢期）にこだわらなくなったから」の割合は、女性 54.9%に対し男性 46.8%、「家事・子育てに対する負担感・拘束感が大きいから」の割合は、女性 25.8%に対し男性 17.3%と男女間の差が見られる。

（2）結婚することの利点

結婚することの利点を3つまであげてもらったところ、「子どもや家族を持てる（76.4%）」が最も多く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる（57.4%）」、「愛情を感じている人と暮らせる（40.8%）」、「人間として成長できる（34.8%）」の順となっている。

男女別では、「子どもや家族を持てる」の割合は、女性 80.0%に対し男性 72.5%、「愛情を感じている人と暮らせる」の割合は、女性 42.1%に対し男性 39.5%、「経済的に余裕が持てる」の割合は、女性 14.1%に対し男性 5.1%と女性の割合が大きくなっており、「社会的信用が得られる」の割合は、男性 23.7%に対し女性 10.3%となっている。

（3）結婚することの不利益

結婚することの不利益を3つまであげてもらったところ、「やりたいことの実現が制約されてしまう（54.8%）」が最も多く、次いで「自由に使えるお金が減る（51.0%）」、「育児・家事等の負担が重くなる（35.0%）」、「家族に対する責任が重くなる（26.5%）」の順となっている。

男女別では、「やりたいことの実現が制約されてしまう」は男女とも差は見られないが、「自由に使えるお金が減る」の割合は、男性 59.1%に対し女性 43.7%、「家族に対する責任が重くなる」の割合は、男性 36.9%に対し女性 17.0%、「育児・家事等の負担が重くなる」は女性 51.0%に對

し男性 17.5%となっている。

< 4 > 仕事と子育ての両立について

(1) 生計の主たる担い手

生計の主たる担い手を聞いたところ、「配偶者 (62.8%)」、「あなた (回答者本人) (32.3%)」となっている。

男女別では、男性は「本人」が 91%と最も大きく、次いで「配偶者」が 5%、女性は「配偶者」が 80%で最も大きく、次いで「本人」が 15%となっている。

(2) 就労形態の変化と時期

結婚・妊娠・出産・子育てをきっかけに回答者又は配偶者の仕事の仕方が変わったか聞いたところ、「変わった (59.7%)」、「変わらなかった (39.7%)」となっている。

仕事のしかたが「変わった」時期としては、「妊娠した時 (31.5%)」が最も大きく、次いで、「出産した時 (25.8%)」、「結婚した時 (19.7%)」、「産後休暇・育児休暇後の復職時 (11.8%)」、「子どもが小学校に入った時 (6.3%)」となっている。

仕事のしかたが変わった内容は、「退職した (58.1%)」と「一時休職した (4.5%)」を合わせた就労中止が 62.6%を占め、「勤務形態が変わった (10.4%)」、「転職した (10.3%)」、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった (6.5%)」の就労継続は 27.2%となっている。

(3) 仕事をやめた理由

結婚や子育てをきっかけに「退職した」と答えた人に、仕事をやめた理由を3つまであげてもらったところ、「仕事と子育ての両立が難しくなった (難しくなると思った) から (31.7%)」が最も多く、次いで「子育てに専念したいと思ったから (25.4%)」、「子どものいる女性が働き続けるのが難しい職場だったから (24.1%)」、「転勤や転居で働き続けることが難しくなったから (22.0%)」の順となっている。

(4) 育児休業制度の利用の有無

今までに育児休業を取得したことがあるかを聞いたところ、取得したことが「ある」人の割合は 15.3%、「ない」が 83.2%となっている。

男女別では、女性 27.4%に対し男性 1.9%となっている。

(5) 育児休業取得期間について

今までに育児休業を取得したことがある人に取得した期間を聞いたところ、「7～12ヶ月 (43.1%)」が最も多く、次いで「1～3ヶ月 (25.2%)」、「4～6ヶ月 (19.2%)」、「1年以上 (10.5%)」の順となっている。

女性では「7～12ヶ月 (44.2%)」が最も多いのに対して、男性では「1～3ヶ月 (63.2%)」が最も多くなっている。

(6) 育児休業制度を利用しない理由

今までに育児休業を取得したことがない人にその理由を聞いたところ、「出産を機に（又は産後休暇中に）あなた又は配偶者が仕事を辞めたので必要なかった（28.4%）」が最も多く、次いで「その他（15.7%）」、「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があったから（15.5%）」、「配偶者が取得したので必要なかった（9.5%）」の順となっている。なお、「その他」の理由としては、「会社に育児休業制度がない」、「自営業なので無理」、「結婚を機に仕事をやめた」などがあげられている。

男女別では、「出産を機にあなた又は配偶者が仕事を辞めたので必要なかった」の割合が、女性 35.3%に対し男性 22.9%、「配偶者が取得したので必要なかった」の割合は、男性 16.9%に対し女性 0.4%となっている。

(7) 女性が働きながら子育てすることに対する意見

女性が働きながら子育てすることについて1つだけあげてもらったところ、「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい（50.3%）」が最も多く、次いで「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい（29.2%）」の順となっている。

性・年齢別では、男女ともに「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」という意見がすべての年齢層において最も多くなっているが、男性の方が女性よりも割合が大きくなっている。また、「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」は、「34歳以下」を除いて男性の方が女性よりも大きくなっている。

共働きの有無別では、「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」という意見が共働きの有無にかかわらず50%前後を占めているが、「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」の割合は「共働きをしている」33.4%に対し「本人は無職、配偶者は就労」15.4%となっている。

(8) 子育てと職業を両立する上で必要な職場の制度

仕事を持っている女性が、子育てと仕事を両立しやすくするために、職場にどのような制度が必要だと思うか3つまであげてもらったところ、「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする（59.3%）」が最も多く、次いで「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする（57.4%）」、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする（45.3%）」の順となっている。

男女別では、「子どもの病気やけがの時に休暇が取れる」の割合は女性 62.7%に対し男性 48.4%となっているが、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」は男性 61.6%に対し女性 56.3%となっている。

<5> 夫婦の家事・育児参加について

(1) 子育てについての話し合い

子育てについて、配偶者と話し合っているか聞いたところ、「時々話し合っている（48.9%）」が最も多く、次いで「よく話し合っている（35.9%）」、「あまり話し合っていない（13.3%）」、「全

く話し合っていない(1.4%)」の順となっている。「よく話し合っている」、「時々話し合っている」の合計は84.8%、「あまり話し合っていない」、「全く話し合っていない」の合計は14.7%となっている。

(2) 夫婦の子育ての役割分担の実態と期待

子育てに関する夫婦間の役割分担の実態について、全体を10として配分してもらったところ、男性は自分の役割分担が4以下であると感じている人が79.0%を占めているのに対し、女性は6以上であると感じている人が80.7%を占めている。

期待としてどの程度の役割分担が適切と考えているかを見ると、男女ともに半々の分担がよいと考えている人が多い(男性48.9%、女性47.5%)。

(3) 夫婦の家事の役割分担の実態と期待

家事に関する夫婦間の役割分担の実態について、全体を10として配分してもらったところ、男性は自分の役割分担が4以下であると感じている人が85.0%を占めているのに対して、女性は6以上であると感じている人が89.2%を占めている。

期待としてどの程度の役割分担が適切と考えているかを見ると、男女半々の分担とするよりも、女性の方が多く分担すべきであると考えている人が、男性で64.8%、女性で71.1%を占めている。

(4) 自分自身の子育てへの関わり

自分自身の子育てへの関わりについて評価してもらったところ、「十分である」、「ある程度は十分である」の合計が女性85.0%に対し男性64.8%となっている。

子育てへの関わりが「あまり十分でない」、「全く十分でない」と答えた人に不十分な理由を聞いたところ、男女ともに「仕事が忙しすぎるため」が多くなっている(男性58.8%、女性70.9%)。

(5) 配偶者の子育てへの関わり

配偶者の子育てへの関わりについて評価してもらったところ、「十分である」、「ある程度は十分である」の合計が男性94.4%に対し女性62.8%となっている。特に、「十分である」について、男性60.5%に対し女性19.7%となっている。

配偶者の子育てへの関わりが不十分な理由を聞いたところ、自分自身の場合同様、「仕事が忙しすぎるため」が男女とも多い(男性66.7%、女性61.2%)が、「子どもとの接し方がわからないため」、「子育ては配偶者がやることだと思っているため」も10%近くあり自分自身の場合よりも多くなっている。

(6) 子育てに関して配偶者に望むこと

子育てに関して配偶者に何を望むか3つまであげてもらったところ、「子どもが尊敬できるような人でいてほしい(39.3%)」、「子どもとふれあう時間を多くしてほしい(36.0%)」、「子どもが悩んでいる時に話し相手になってあげてほしい(30.0%)」の順となっている。

妻が夫に求めているのは、「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」、「家事や子育てをもっと分担してほしい」、「自分が悩んでいる時に相談にのってほしい」、「子育てに頑張っている自分をもっと認めてほしい」となっている。

一方、夫が妻に求めているのは、「もっと子どもをのびのびさせてやってほしい」、「自分だけが

子育てで悩んでいると思わないでほしい」、「もっと子どもや子育てについて相談してほしい」となっている。

＜6＞育児に関する意識について

（1）子どもを生み育てることの喜びや良さ

子どもを生み育てることの喜びや良さを3つまであげてもらったところ、「子どもを育てることによって自分が成長する（59.3%）」が最も多く、次いで「家族の結びつきを強める（56.2%）」、「子どもを育てることは楽しい（39.4%）」の順となっている。

（2）子育てをする上での不安や悩み

子育てをする上での不安や悩みを持っているか聞いたところ、78.0%（男性 70.8%、女性 80.2%）が「持っている（持っていた）」と回答した。

「持っている」と回答した方に、3つまであげてもらったところ、不安や悩みとして、「子ども自身に関すること（子どもの健康、勉強、性格やくせ、友人など）（43.4%）」が最も多く、次いで「出産・育児にお金がかかる（37.3%）」、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない（24.7%）」の順となっている。

上位3項目以外では、男性で「将来の社会が不安である（28.2%）」、女性で「自分の自由時間がない（20.1%）」の割合が大きくなっている。

（3）子どもに対する虐待の意識

自分が子どもを虐待しているのではないかと感じたことがあるかとの問いについては、男性の18.8%、女性の36.9%が「ある（あった）」と回答しており、前回調査（男性20.9%、女性41.0%）と比べて、男女とも減少している。

また、配偶者が子どもを虐待しているのではないかと感じたことがあるかとの問いについては、男性（妻に対して）の10.7%、女性（夫に対して）の10.5%が「ある（あった）」と回答している。

（4）子どもに対する接し方

自分が子どもにしてしまうことについて聞いたところ、「叩くなどの体罰（38.4%）」と「子どもを傷つけることばを言う（34.9%）」の2項目に回答が集中している。

男女別では、「子どもを傷つけることばを言う」で、男性24.0%に対し女性38.1%となっている。

また、虐待の認識が「ある」と答えた人のうち、「叩くなどの体罰」が65.1%、「子どもを傷つけるようなことばを言う」が70.4%、「子どもだけを（家や車の中に）置いて出かける」が11.7%、「食事を長時間与えない、身の回りの世話をしない」も1.1%見られる。

配偶者が子どもにしてしまうことについても、「叩くなどの体罰（22.0%）」と「子どもを傷つけるようなことばを言う（20.4%）」の2項目に集中しているが、自分自身よりも割合が小さく、また、男女間でも自分自身より差は小さくなっている。

(5) 子育ての不安や悩みの相談先

子育ての不安や悩みの相談先を聞いたところ、「友人・知人 (71.9%)」、「配偶者 (71.3%)」が最も多く、次いで「配偶者以外の家族や親族 (60.8%)」、「学校・保育所・幼稚園の先生 (31.0%)」の順となっている。

男女別では、「配偶者 (男性 74.0%、女性 70.4%)」の割合は男性の方が大きい、「友人・知人 (49.2%、78.7%)」、「配偶者以外の家族や親族 (42.4%、66.3%)」、「学校・保育所・幼稚園の先生 (19.2%、34.4%)」は女性の方が大きくなっている。

また、相談の結果、不安や悩みが解決するなど満足したかの問いについては、「満足した (25.2%)」、「まあまあ満足した (57.9%)」となっており、合計すると 83.1%が満足している結果となっている。

(6) 子育ての知識と情報源

子育ての知識を主にどこから得ているのか 3つまであげてもらったところ、「友人・知人 (62.3%)」が最も多く、次いで「自分や配偶者の親 (61.0%)」、「育児書や雑誌 (27.9%)」、「配偶者 (22.8%)」の順となっており、以下、「保育所や幼稚園 (21.4%)」、「インターネット (16.7%)」、「テレビやラジオ (11.5%)」、で続いている。

男女別では、「配偶者 (男性 54.8%、女性 13.2%)」の割合は男性の方が大きい、「友人・知人 (43.2%、68.1%)」、「育児書や雑誌 (21.2%、29.9%)」は女性の方が大きくなっている。

<7> 子どもの遊びや環境について

(1) 子どもの遊ぶ場所

子どもの遊ぶ場所について主なものを 3つ聞いたところ、0歳～2歳では「自分の家 (98.3%)」、「公園 (46.3%)」、「商店街やデパート (14.6%)」、「友達の家 (12.9%)」、「地域子育て支援センター (11.4%)」の順となっている。

3歳から未就学までの子どもの遊ぶ場所では、「自分の家 (97.8%)」、「公園 (60.7%)」、「商店街やデパート (19.7%)」、「友達の家 (17.7%)」、「車のあまり通らない道路 (10.0%)」の順となっている。

小学校低学年 (1～3年生) では、「自分の家 (94.1%)」、「公園 (55.0%)」、「友達の家 (47.3%)」、「児童館 (15.2%)」、「学校の校庭や体育館 (11.6%)」の順となっている。

小学校高学年 (4～6年生) では、「自分の家 (85.8%)」、「友達の家 (69.2%)」、「公園 (51.2%)」、「学校の校庭や体育館 (17.2%)」の順となっている。

中高生では、「自分の家 (78.9%)」、「友達の家 (64.7%)」、「商店街やデパート (24.2%)」、「ゲームセンターやカラオケボックス (19.1%)」、「本屋やCD店 (16.0%)」の順となっている。

(2) 最近の子どもの生活や子どもを取り巻く環境についての問題点

最近の子どもの生活や子どもを取り巻く環境について問題点と思うことを、3つまであげてもらったところ、「外で遊ぶことが少なくなった (49.4%)」が最も多く、次いで「インターネット・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった (犯罪被害、トラブル、有害情報閲覧等)

(44.2%)」、「あいさつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった(32.3%)」、「子どもをしかる大人が少なくなった(31.7%)」、「子どもをねらった犯罪が多くなった(24.1%)」の順となっている。

＜ 8 ＞ 子育て支援のための行政への要望等について

(1) 国、県、市町村に期待する政策

健やかに子どもを育てるために国、県、市町村に期待する政策を5つまであげてもらったところ、「教育費の負担を減らす(58.8%)」が最も多く、次いで「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする(57.7%)」、「児童手当や扶養控除を増額する(42.5%)」、「妊娠や出産にかかる費用を援助する(40.3%)」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める(35.7%)」の順となっている。

(2) 健やかに子どもを育てるためにしていること。今後、してみたいこと

子どもを健やかに育てるために現在していることを3つまであげてもらったところ、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする(85.3%)」が最も多く、次いで「夫婦で家事や育児を分担する(29.3%)」、「悪いことをしていれば、よその子ども自分の子と同じように注意する(23.4%)」、「PTAなどの社会教育活動に参加する(17.3%)」、「近所の子育て家庭と親しくする(16.4%)」の順となっている。

男女別では、「夫婦で家事や育児を分担する(男性35.2%、女性27.7%)」、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる(男性20.8%、女性11.6%)」の割合は男性の方が大きく、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする(80.4%、86.9%)」、「近所の子育て家庭と親しくする(12.0%、17.8%)」は女性の方が大きくなっている。

今後してみたいことでは、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる(20.0%)」が最も多く、次いで「特にない(19.0%)」、「悪いことをしていれば、よその子ども自分の子と同じように注意する(16.5%)」、「文化・芸術活動を通じて子ども達と関わる(14.6%)」、「子育て中の人の相談相手になる(12.1%)」の順となっている。

男女別では、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる(男性28.4%、女性17.5%)」の割合は男性の方が大きく、「子育てに関する講座や教室などに参加する(5.2%、13.8%)」は女性の方が大きくなっている。

現在「していること」での回答が少ない「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる(13.7%)」、「文化・芸術活動を通じて子ども達と関わる(4.5%)」が、「今後してみたいこと」の回答では大幅に増加している。